

# 社会言語科学会ニュースレター 創刊準備号

1998年1月23日 発行：社会言語科学会事務局  
〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室

「社会言語科学会」がいよいよ正式に発足します。発足後に継続して発行する予定の「社会言語科学会ニュースレター」の創刊準備号をお届けします。「準備号」とは言え、会員および会員になっていただきたい皆さんに是非とも知っていただきたい大切なニュースを掲載しています。どうぞご覧下さい。

## 【第1回社会言語科学会大会プログラム】

期日：1998年1月24日（土）・25日（日）

場所：学習院大学 百周年記念会館三階小講堂

第1日 1月24日（土）

12:00 受付開始

(10:00～13:00 理事会)

13:00 開会

13:00～13:30 設立総会

13:30～13:40 会長挨拶

13:40～14:40 記念講演

15:00～17:30 研究発表

18:00～20:00 懇親会

**記念講演** 「ことばと出会い、ことばをつくる－『異』なる共同体への参加の軌道－」

講演者 佐伯 胖  
(東京大学大学院教育学研究科)

### **研究発表**

司会：荻野綱男（東京都立大学）  
永瀬治郎（専修大学）

15:00～15:30 「会話者の役割の重層性と力関係の交渉」

筒井佐代（大阪外国語大学）

15:30～16:00 「湾岸戦争報道にあらわれる日本の思考習慣」

宇田川かおり（日本女子大学）

16:00～16:30 「会話における会話参加者の位置関係と言語形式」

梶本総子（大阪外国語大学大学院）

16:30～17:00 「クリティカルリテラシー－"Invisible"を"Visible"にするための言語研究の方法と実践－」

林礼子（甲南女子大学）

17:00～17:30 「日常用語としての『甘え』の使い方」

山口勸（東京大学）

日高由香子（東京大学大学院）

水野 恵（東京大学大学院）

膳場百合子（東京大学大学院）

山内麻祐子（東京大学大学院）

18:00～20:00

### **懇親会**

学習院大学百周年記念会館三階会議室

第2日 1月25日(日)

9:00 受付開始

10:00 開会

《午前の部》

**研究発表**

司会：杉戸清樹(国立国語研究所)

日比谷潤子(慶応義塾大学)

10:00~10:30 「愛媛県東宇和郡西部におけるアクセントの世代差について」

清水誠治(東京都立大学大学院)

10:30~11:00 「集団ステレオタイプを生み出す言語コミュニケーション」

田鍋佳子(東京大学大学院)

岡隆(東京大学)

11:00~11:30 「自然談話資料に見る終助詞『よ』『ね』の使用の男女差」

尾崎喜光(国立国語研究所)

11:30~12:00 「異体字選択に影響する要因の分析」笹原宏之(国立国語研究所)

横山詔一(国立国語研究所)

12:00~12:30 「日本語のア系指示語による言語行動-指示語は単なる「指示する」語か?-」

菅沼文子(日本女子大学)

《午後の部》

13:30~16:30

**シンポジウム**

『社会・文化的認知と言語・コミュニケーション』

コーディネーター

井出祥子(日本女子大学)

パネリスト

井上京子(慶応義塾大学)

片桐恭弘(ATR知能映像通信研究所)

西阪 仰(明治学院大学)

平賀正子(放送大学)

山梨正明(京都大学)

16:30 閉会

◇◆◆◆◆◆◆◆ **第2回社会言語科学会研究大会** ◆◆◆◆◆◆◆◇

《 予 定 》

《 発表の募集 》

社会言語科学会の第2回大会は、以下の予定で行われます。

日時：1998年7月4日(土)・5日(日)

場所：京都大学大学院

人間・環境学研究科

地下大会議室(総合人間学部構内)

〒606-8316 京都府京都市左京区

吉田二本松町

交通：京阪電車丸太町駅(ないしは出町柳駅)下車、徒歩約15分

阪急電車四条河原町下車

→市バス(201系統/31系統)で

東一条下車、徒歩約5分

左記の第2回社会言語科学会大会の研究発表を以下の要領で募集します。

発表資格：申込の時点で社会言語科学会の会員であること。(申込と同時に入会も可)

発表内容：本学会の趣旨に沿った分野の内容で、未発表のもの。(社会言語学、社会心理学、社会学、心理学、文化人類学、言語学、語用論、人口知能/情報科学、認知科学、その他の分野でことばを社会との関係でとらえた研究)

発表時間：原則として1件あたり発表20分、質疑応答10分(ただし報告本数を

考慮し、時間調整を行う場合もある)  
応募要領：(1)発表題目、(2)氏名、(3)住所、(4)連絡先電話番号、(5)E-mailアドレス(利用していない場合は不要)、(6)所属、(7)職名、(8)発表要旨800字程度、を記載したEメールを下記に送付して下さい。なお、Eメールを原則としますが、郵送でも受け付けます。

応募先：hasimoto@isics.u-tokyo.ac.jp  
東京大学社会情報研究所  
橋元研究室(社会言語科学会研究大会委員会)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学社会情報研究所  
Tel. 03-3812-2111(内線5937)  
Fax. 03-3811-5970

申込締切：1998年4月10日(金)  
予稿集：発表者には、発表に先だって予稿集用の原稿執筆をお願いします。(A4で6枚以内、締め切り期限1998年5月30日=予定)。

なお、応募の採否、発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います。

☆☆☆☆☆ **社会言語科学会の学会誌「社会言語科学」に論文投稿を** ☆☆☆☆☆  
**社会言語科学会編集委員会準備会**

社会言語科学会の学会誌を刊行します。創刊号は1998年7月に刊行する予定です。正式な編集委員会は、学会発足後にスタートする予定ですが、現在、準備会として、学会誌に関するさまざまなことを相談しています。

編集委員会のスタートに合わせて、論文の投稿を受け付けます。

以下に示す編集規定(案)・投稿規定(案)・執筆要項(案)を参照の上、論文をご用意ください。正式な規定・要項も、ほぼ同内容になる予定です。

投稿は、次のところまでお送りください。1998年1月24日正式受け付け開始ですが、それ以前でもかまいません。

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
東京都立大学 人文学部 国文学専攻  
荻野綱男

学会誌は、学会の顔です。いい学会誌とは、いい論文が載る雑誌のことです。会員全員の協力でいい学会誌を作りたいと思います。

社会言語科学会の会員の方々から多くの論文のご投稿を期待しております。

#### 編集規定(案)

1. 本誌は社会言語科学会の機関誌であり、1年1巻とし、2号に分けて発行する。
2. 本誌に研究論文、展望論文、その他(書評、資料、ショートノートなど)の欄を設ける。
3. 研究論文は、独創性のある実証的または理論的な論文とする。
4. 展望論文は、重要な課題についての内外諸研究を広く検討し、独自の観点から総合的に概観する論文とする。
5. 本誌の編集および印刷、発送は編集委員会が行なう。
6. 投稿論文は、編集委員会が審査し、掲載の可否を決定する。
7. 採択論文の印刷に要する費用は、原則として本学会の負担とする。

付則：創刊号は、1998年7月に刊行する。

### 投稿規定 (案)

1. 投稿内容は未公開のものに限る。
2. 投稿は随時受け付ける。
3. 原稿の種類は研究論文と展望論文、その他(書評、資料、ショートノートなど)とする。
4. 原稿の本文は日本語または英語とする。表題と要旨とキーワードは日本語と英語の両方とする。
5. 論文の投稿者のうち少なくとも1名は社会言語科学会の会員でなければならない。
6. 論文は正本を1部、副本を3部提出する。副本は、著者が特定できないように配慮しなければならない。提出された論文は、原則として返却しない。
7. 著者校正は初校のみとする。校正のさいの原稿への加除は認めない。
8. 原稿料は払わない。
9. 抜刷20部を無料で贈呈する。
10. 大幅に分量が超過したり、特殊な製版を要したりして、特別な費用がかかるときには、その費用は投稿者の負担とする。
11. 原稿は編集委員会委員長宛てに送付する。
12. 論文の執筆は原則として「執筆要項」に従うこととする。
13. 掲載された論文などの著作権は、原則として本学会に帰属する。

### 執筆要項 (案)

1. 原稿は縦置き横書きとする。句読点は「. , 」とする。
2. 和文の研究論文は16,000字以内、展望論文は20,000字以内の長さとする。英文の場合は、それぞれ4,000語以内、5,000語以内とする。和文要旨は400字程度、英文要旨は100語程度とする。キーワ

ードは、日本語、英語とも、それぞれ3~5語とする。その他の原稿については、特に長さを定めないが、簡潔を旨とする。

3. 原稿には、①原稿の種類(研究論文、展望論文など)、②和文表題、英文表題、③著者名とそのローマ字名、所属とその正式英語名、連絡先(住所、電話、E-mailなど)、④和文要旨、英文要旨、⑤本文、参考文献、図表を含む。
4. 本文のなかで章・節等の記号を付ける場合には、章は1., 2., ……、第1章第1節は1. 1. のようにし、以下これに準ずる。
5. 本文中の外国人名等の固有名詞は、原綴りあるいは英語綴りを原則とするが、公式の名称等として著名なものはカタカナでもよい。
6. 本文中での参考文献の引用は、原則として以下のようにする。  
安田・海野(1977)によれば……,  
Spitzberg & Cupach(1984)は、……
7. 参考文献の表記は、原則として以下のようにし、その配列は、和文文献と欧文文献を分けず、原則としてアルファベット順とする。なお、より詳細には、社団法人日本心理学会発行の「執筆・投稿の手びき」(1991年改定版)を参照するとよい。

#### ①和文の単行本の場合

安田三郎・海野道郎 1977 社会統計学 改定2版 丸善

#### ②和文の編著書中の論文の場合

竹内郁郎 1982 受容過程の研究  
竹内郁郎・児島和人(編) 現代マスコミュニケーション論 有斐閣  
Pp. 44-79.

#### ③和文の逐次刊行物の場合

芳賀純 1963 日本人学生の学習した英語名詞の意味構造の比較研究

教育心理学研究, 11, 33-42.

④ 欧文の単行本の場合

Spitzberg, B. H., & Cupach, W. R. 1984 Interpersonal communication competence. Beverly Hills, CA: Sage.

⑤ 欧文の編著書中の論文の場合

Winton, W. M. 1990 Language and emotion. In Giles, H., & Robinson, W. P. (Eds.), Handbook of language and social psychology. Pp. 33-49.

⑥ 欧文の逐次刊行物の場合

Zajonc, R. B. 1980 Feeling and thinking: Preferences need no

inferences. American Psychologist, 35, 151-175.

8. 図・表は1枚の用紙に一つだけ書く。また、図と表のそれぞれに一連番号をつけ、さらに、題(説明; キャプション)をつける。
9. 図・表は、原則として、投稿されたものをそのまま利用して印刷するので、鮮明なものを用意すること。刷り上がりの大きさは編集委員会の裁量による。
10. 図・表の挿入希望箇所を指示する。
11. 注は、論文の末尾に入れる「末尾注」とし、脚注は使わない。

事務局からのお知らせ

1月10日現在の社会言語科学会への入会申し込み者リストを掲載します。

《お詫びとお願い》

昨年10月事務担当者のコンピュータの故障があり、そのために申し込みをした方でこのリストに記載されていない方があるかもしれません。1998年1月9日以前にお申し込みになったのに、このリストに記載されていない方は誠に申し訳ありませんが、再度、事務局へお申し込みくださいますようお願い申し上げます。ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。

[五十音順]

相川知子 相澤正夫 吾郷由希  
朝生幸次郎 朝日祥之 阿部圭子  
新井香里 有元光彦 飯島一行 李吉鏞  
池田理恵子 池田俊一 石井恵理子  
石井秀子 石田小百合 石津和恵  
板橋義三 井出祥子 井出里咲子  
伊藤宏美 伊藤道子 犬飼康弘  
井上逸平 井上京子 井上史雄  
井上文子 井上雅子 任柴哲 岩垣守彦  
岩城裕之 岩田祐子 岩本真理  
ウヰン宮副裕子 宇田川かおり  
内田らら 内海彰 梅田博之 江川清  
江端義夫 江村祐文 遠藤織枝

及川京子 大河原尚 短YMCA日本語会  
大嶋秀樹 大島弥生 大城朋子  
太田一郎 太田有多子 大塚淳子  
大塚由紀子 大塚容子 大原始子  
大山芳史 岡隆 岡本佐智子 岡本慎一郎  
岡本能里子 小河尚子 小川理恵  
荻野綱男 奥村明子 尾崎裕子  
尾崎喜光 小田切由香子 小田三千子  
小野寺典子 巖廷美 笠松瑞子  
片桐恭弘 加藤和夫 加藤重広  
加藤典子 加藤安彦 角谷英則  
金澤洋子 鎌田良二 上村妙子  
神谷健一 亀田千里 亀田裕見

川井章弘 川上善郎 川口義一  
川越いつえ 川崎晶子 川崎享子  
川村よし子 簡月真 姜錫祐 管玲見  
菊池友昭 岸江信介 木谷純 木戸光子  
木下朗 金静子 木村哲也 久木田恵  
久野眞 窪田富男 熊谷明泰 熊谷滋子  
熊谷智子 熊谷康雄 熊崎さとみ  
ラ・サ・クラティフ 倉光なをみ 栗原優  
くろしお出版 黒沼祐佳 見城武秀  
小池安比古 古石篤子 河野彰 郡史郎  
小暮律子 KOZAI, Soichi 小坂昌子  
小林葉子 顧明耀 小矢野哲夫  
小山哲春 近藤彩 西郷英樹 西條美紀  
坂詰洋子 坂野佐知子 坂本清恵  
笹川洋子 佐々木えりか 佐々木香織  
佐々木由美 笹原宏之 貞広邦彦  
佐藤響子 佐藤高司 佐藤修美  
佐藤泰子 佐藤亮一 眞田信治  
佐野香織 澤伊津美 志賀幹郎  
篠崎晃一 柴田武 柴田真美 洪谷勝己  
洪谷博子 嶋村直己 島本基 清水誠治  
下野雅昭 白井純子 陣内正敬  
末田美香子 菅沼文子 杉戸清樹  
梶本聡子 杉山麻衣子 鈴木義里  
鈴木潤 鈴木シルヴィ 鈴木睦  
鈴木亮子 関山健治 薛鳴 曹偉琴  
高市敬子 高木條治 高木千恵  
高木紀子 高木裕子 高田祥司  
高梨克也 高梨博子 高野直人  
高橋健一郎 高橋道子 高橋康子  
高原脩 田口純 田代智恵子  
多田美有紀 田中衛子 田中廣明  
田中ゆかり 田辺和子 田鍋佳子  
田村健一 陳於華 塚田実知代  
辻大介 都染直也 津田葵 土田滋  
筒井佐代 土岐哲 徳川宗賢 徳田美穂  
徳田有紀子 徳山道子 堂寺泉  
友定賢治 永井麻生子 中井精一  
中井幸比古 中島悦子 中島祥子  
永瀬治郎 永田高志 中野敦 永野喜子

中鉢恵一 中道真木男 中村恭子  
中邑啓子 仲矢信介 中山晶子  
永山友子 奈倉俊江 難波康治  
難波功士 二階堂整 西尾純二  
西川玲子 西阪仰 西田谷洋 西原鈴子  
丹羽一彌 丹羽卓 祐ストップニー・J.  
野林正路 野村眞木夫 野山広  
野呂幾久子 野呂香代子 萩原明子  
橋内武 初鹿野阿れ 橋田浩一  
橋本博子 橋元良明 橋本佳子  
波多野円 濱口壽子 八若壽美子  
花井裕 浜崎なおみ 浜田麻里 林礼子  
原隆幸 原野亮子 半藤英明 日尾康子  
東保登紀代 比嘉正範 備前徹  
日高水穂 ビル・フリア 日比谷潤子  
一二三朋子 平岡秀子 平野圭子  
深澤のぞみ 深田嘉昭 福島悦子  
福嶋秩子 福島直恭 福田麻衣子  
福田充 藤井義久 藤川美穂 松木礼子  
古本裕子 文野峯子 彭国躍 保坂良子  
堀江薫 堀江プリアー 堀口純子  
洪性新 本多啓 本田厚子 本名信行  
ジョン C. マーハ ましこひでのり 益田出  
栞見蘇弘美 松尾真由美 松木啓子  
松下達彦 松田謙次郎 松田珠美  
松田真希子 松田美香 松田美佐  
松永修一 松原知代子 松村一登  
松村端子 松本功 Kazuko Matsumoto  
松本青也 Maree Claire 丸山明代  
三浦東美 溝上由紀 光元聰江 南保輔  
源邦彦 三牧陽子 三宅和子 宮崎里司  
宮島達夫 宮谷敦美 宮本一郎  
宮本マラシー 無藤隆 村井巻子  
村上敬一 村上恵 村松賢一 文瑞蘭  
茂木真理 森住史 森壮也 森越一世  
森田敦郎 守永さつき 森康敏 守弥生  
茂呂雄二 文殊紀久野 安田敏朗  
安田仁美 安田真由美 柳内安恵  
藪内絵 谷部弘子 山岡千弘 山口恵理  
山口和代 山口勸 山崎けい子

山崎友子 山下暁美 山下徹 山田敏弘  
山田伸子 山梨正明 山本三和子  
山本富美子 山本幸子 鎌水兼貴  
横林宙世 横山詔一 吉岡泰夫  
吉川友子 吉田雅子 柳昌淳  
Ruth Vanbaelen 若松美記子 渡邊智子  
渡辺友左 [以上]

### 1998年会費の振り込みについて

#### 年会費

一般会員：7,000円

学生会員：5,000円

団体会員：10,000円

年会費の振り込みはすべて郵便振替で  
お願いします。なお、振り込み料金は会  
員の方のご負担をお願いします。

#### 郵便振替の加入者名と口座番号

加入者名：社会言語科学会

口座番号：00210-2-87060

なお、学生会員の方は98年度の在学を  
証明するための書類（学生証など：コ  
ピー可）を別に事務局まで郵送かFAX  
でお送りください。

#### 海外在住の会員の会費と その振り込みについて

- 1) 海外会員の方の会費は国内在住の  
会員の年会費に準じます。
- 2) ODA対象国に在住会員の方の年  
会費は当分の間、該当会費の半額  
とします。現在の加入希望者の範  
囲では、ブラジル、アルゼンチン、  
韓国に在住の方が該当します。

振り込み方法についてはあらためてご  
本人にお知らせいたします。

## 会員募集中

社会言語科学会では会員を募集して  
います。下記の要領で事務局まで  
お申し込みください。

#### 学会趣旨

われわれは討議を重ね、社会言語科  
学会を創設することになりました。

本学会は言語・コミュニケーション  
を人間・文化・社会との関わりにおい  
て取り上げそこに存在する課題の解明  
を目指します。

既成の学問領域を立脚点としつつ、  
その枠を越えて、関連領域の研究者と  
の交流を通じ、その刺激と緊張を原動  
力として前進していきたいと考えてい  
ます。

特に、若い方々の入会を期待します。  
また、同志の人々の意欲によって、活  
気のある学会にしていきたいと思っ  
ています。

なお、この学会の発足と同時に「社  
会言語学研究会」は発展的に解消しま  
す。

#### 申し込み先

社会言語科学会事務局

専修大学文学部 永瀬研究室気付

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1

電話：044-911-0688

FAX：044-911-1231

E-Mail: jnagase@ra2.so-net.or.jp

: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp

入会申し込みの様式は次ページのものを  
ご利用くださると便利です。

ふりがな  
氏名：

連絡先： 1. 自宅 2. 所属先 3. その他（ ）

〒 所在地

電話： FAX：

E-Mail：

所属名：

資格（学生，非常勤講師，研究員など）：

研究領域（15文字以内）：

【編集担当から】

- 学会が正式に発足したのち，この「社会言語科学会ニュースレター」は学会の事業委員会が編集・発送を担当します。どうぞよろしくおねがいします。
- このニュースレターにも，会員各位からいろいろな記事や情報をお寄せいただくことを期待しています。会員相互の気楽で有意義な情報交換の広場としていきたいと願っています。ご投稿，ご意見をお待ちします。
- ご連絡は，〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所 杉戸清樹（電話03-5993-7625 Fax 3906-3530） e-mail:ssugito@kokken.go.jp までお願いします。

# SPSSがあなたの研究をお手伝いします。

統計解析ソフト

## SPSS8.0 for Windows

新登場!!

(英語版)

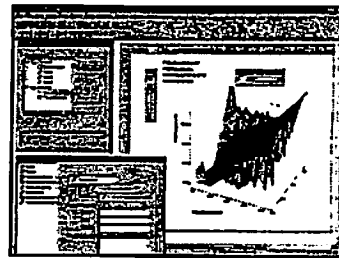
～インタラクティブな最新グラフィック・システムによりデータを自由自在～

統計解析ソフト

## SPSS7.5 for Windows

好評発売中!

～データのパワーを解き放つ～



画面写真は、SPSS 8.0(英語版)を使用しています。

### SPSS for Windowsの主な統計機能

基礎統計、多変量解析はもとより

●因子分析 ●クラスター分析 ●判別分析 ●回帰分析 ●相関分析 ●検定 など

SPSS Japan インターネット WWW ホームページ  
URL: <http://www.spss.co.jp>

エス・ビー・エス株式会社  
(SPSS Japan Inc.)

〒150 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア7-10F  
TEL.03-5468-5511(代) FAX.03-5468-5621  
e-mail:spss@spss.co.jp

**SPSS**  
Real Stats. Real Easy.™